

ハンディでリーズナブルながら内容は置換えのきかぬ
ここでしか見られない価値が詰まったシリーズ

【書物史誌コレクション】

文藝同人雑誌出版マニュアル

—戦前版

解題

「同人雑誌の作り方本から何がわかるか？

—同人誌出版の戦前史

目次

はじめに

一、同人誌出版の研究が必要

二、明治からある同人誌

三、大正半ばに発生した「同人雑誌」という言葉

四、『我楽多文庫』は最初、ただ「雑誌」と

呼ばれていた

五、本書復刻の意義：同人誌出版史の手がかりに

六、同人誌の発展段階素描

七、ことばがない時代をどう知るか

八、同人誌作成マニュアルから何がわかるか

九、民衆出版社と中野扇歌について

十、研農社と杉田泰一について

さいごに

同人誌についての文献リスト（年代順）

『同人雑誌の経営策』中野扇歌 著(民衆出版社、1923)	
序	10~11
目次	12~15
1、発行の準備	16~17
2、雑誌発行の届出手続	17~18
3、読者を募集する方法	18~20
4、努力で同好家を教多く知れ	20~21
5、多数の同好家を集めた成功実例	21~22
6、広告は絶えずする事	22~23
7、広告の有利を認めた実例	23~25
8、人に期する条件を附せよ	25~26
9、成功する広告の仕方	27~28
10、誌代未納者の懲戒策	28~30
11、誌代未納者は斯くすれば絶対無い	30~31
12、便利な会計整理法	31~33
13、第三種郵便物認可に就いて	33~34
14、雑誌販売の増進策	35~36
15、文壇の大家を賛助員とするには	36~37
16、安価に雑誌を作るやり方	37
17、活版印刷校正の仕方	37~38
18、斯かる社はキット失敗する	38~39
19、奇抜な広告で失敗した実例	40~41
20、豫約出版に就いての注意	41~42
21、最も安価な広告法の色々	42~45
22、振替貯金加入の手続き	45
23、文壇へ出る最好的の武器	45~46
24、江口渢氏の同人雑誌時代	46~48
25、舟木重信氏の「異象」時代	48~50
26、「新思潮」の思ひ出	50~52
27、新聞廣告をするには	52~53
28、生きた廣告をせよ	53~54
29、頗る偉大な雑誌廣告	54~56
30、發行を水継するには	56~57
31、支部を作るには斯くせよ	57~61
32、外交壳捌き員	61~62

編・解題—小林昌樹（国会図書館司書）

造　　本—総 226 頁・A5 判・並製

価　　6,000 円

ISBN 978-4-907236-81-6

原本

中野扇歌『同人雑誌の経営策』(民衆出版社、1923)

杉田泰一『趣味の小文藝誌経営法』(研農社、1936)

*解題、総目次



Kanazawa Bumpokaku
金沢文庫

〒920-0867 金沢市長土堀2-16-30
Tel 076-261-8884 Fax 233-3111



書店様へ…ありがとうございます 直接小閣までお申込みください

図版はすべて本書より 価格は税別 048/11/4000

「近代書物・書誌学」という、

まだ見ぬ学問領域への形成の端緒に寄与する。

【書物史誌コレクション】

文藝同人雑誌出版マニュアル

—戦前版

全1卷
編集復刻版

小冊子、リーフレット、雑誌連載記事など、資料検索の
網の目からは、どうしてもこぼれ落ちがちな、
しかしながら時代感覚を伝える
有用な資史料を紹介する。

【書物史誌コレクション】発行の意義
—数千万点のデジタル資料を手中にするためのシリーズ

近代書誌懇話会

古来、図書は智識を保存する器であった。情報フローを担つた雑誌・新聞メディアですら、古新聞・古雑誌に変じて保存メディアとして事実を後世に伝えてきたのは、昭和初年の明治新聞雑誌文庫の成立に徴せば納得されよう。

そう、ついこの前まで、印刷メディアは人類にとって唯一の智識・情報メディアであったと言ってよい。けれど、米国よりインターネットが来寇して20年、ICTがその役割を代替しつつあり、あまつさえGoogleブックスなどの形で、印刷メディアをも飲み込みつつあるのは諸兄らも知るところ。そのような中、あえて旧メディアたる図書について、あるいはその置場であり組織者だった図書館についての復刻シリーズを立ち上げたのは、次のような逆説による。

戦前のパンフレット表紙に「以印刷替謄写」と印字されるを見て、「謄写版の替わりに活版印刷したのだろう」と誤解せし向きなかりしか。あるいは、復刻新聞を参照し、その夕刊に例えれば5月5日と印字せるを以って、同日の記事と解釈する向きなかりしか。あるいはまた、国会図書館に現有する戦前本をすべて、帝国図書館本と見なすような粗忽はなかりしか。

これらは皆、近代書誌や図書館史の知識の欠如に起因する。

昨今の人々が、新聞をとらず、雑誌を読まず、図書を耽読せねば、それらの使い方、読み方が判らなくなつて当然であろう。

しかし、これらを皆、一概に責められないのは、我々が戦前を知らず、よって百瀬孝『事典 昭和戦前期の日本』が成立し、昭和人が明治を知らず、よって石井研堂『明治事物起原』が尊ばれるのと同様のことゆえである。

あたかもよし、2010年度から日本の国会図書館においてはその数千万点に及ぶ資料がデジタル化され、全世界から参照可能となっていた。

これらのデジタル化された資料を縦横に活用するには、今こそ図書の使い方、雑誌の読み方、新聞紙のめくり方といった、印刷メディアが唯一の智識・情報メディアだった往時の身体的感覚、つまり作法・リテラシーといったことを会得することが肝要となる。旧メディアたる図書、あるいはその置場であり組織者だった図書館についての知識に通じるものこそ、数千万点のデジタル資料を手中にしているといえよう。

しかし、かつての作法・リテラシーを現代に会得することは、時代も状況も異なり、おいそれとはいかない。しかし、この「書物史・誌コレクション」を備え置き、折にふれ参考にすれば、作法・リテラシーといった言語化しにくい知識をも自ずと身に付くことになるのであるまいか。

全世界に本書をすすめたい。

ワイド拡大復刻で判読性もアップ

本書の効用

- 出版史のことばがわかる
- 文学史的観点からの利用
- 印刷、出版の相場がわかる：活版と謄写版、部数、パクリ
- 出版法制の（出版者側から見た）実務がわかる：極端本と周辺本。

出版法制の実態史を解明するには、主義本、エロ本といった極端な本にならび、同人誌や会報（機関誌）といった周辺的な本について追いかけることが必要だということが今回の復刻でも証明できよう。

